
拳銃

真貴人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

拳銃

【ZPDF】

Z0507D

【作者名】

真貴人

【あらすじ】

毎日のように虚められ、学校にも行きたくないと思う人は世界中にたくさん居るだろう。そして、彼もまた例外では無かつた・・・。

毎日のように虐められ、学校にも行きたくないと思つ人は世界中にたくさん居るだろう。

そして、彼もまた例外では無かつた・・・。

彼は中学一年生の男子、一部の上級生を中心とした同級生の虐めにあつていた

「誰がカレーパンつて言つた！？焼きそばパンだろ？」

「死にたいの？」

「す・すいません・・・。」

毎日毎日バリエーションが違ういじめ方、もつと他の事を考えた方がいいと思うが。

今日は繩でグルグル巻きにされ、掃除道具箱に入れられ一時間。

一時間経つたら箱を倒して箱を蹴つたり、殴つたり踏んだり・・・

教師も他の生徒も見てみぬフリ。

彼の味方など、誰一人居なかつた。

「いつまで寝てるの！？早く学校行きなさい。」

学校に行きたくも無いが、いつも親に追い出されて学校に行かなければならない。

昔、勇氣を出して学校をサボつたら警察に職務質問され、家に強制送還された。

そして、親に怒られ、次の日には虐めが2レベルくらいアップした。

周りは敵ばかり、無関心な親は気付かぬフリ。

彼は追い込まれていた。

ある日、学校に遅刻しそうになつた。

「（遅刻すると更に虐められる・・・。）

もつとも、虐められるのには変わりないのだが・・・。

急いでる為か、人に当たつた。

彼は吹っ飛んだ。

朝食の食パンも吹っ飛んだ。

「何当たつてんだワレー。」

「ひい、すいませんっー。」

「「じめんで済んだら警察はいらねーんだよー。」

ヤクザ風の男は、彼を強く蹴つてから立ち去つた。

その時・・・

力チャツ！

「ん・・・？」

何かが落ちた。

彼はその黒く、存在感のある物を取り、驚愕とともに恐怖を覚えた

「じゅつ、銃だ・・・。ぴつ、ピストル。拳銃・・・。」
ずつしりと重量感があり、艶消しの黒。

そして、彼の脳裏に様々な言葉が浮かんだ。

とりあえず、あのヤクザ風の親父とは関わりたくも無いので、周囲を確認して、鞄に入れた。

学校へ行く途中でこの拳銃をどうしようかと考えていた。

「警察に届けようか・・・いや、そんな事したらまた厄介な事になるか・・・」

パニックのためか、上手く思考が回らない。

「や二二に捨てようかなあ。でも何かありそだしなあ・・・・・
あーだーこーだ・・・・」

とりあえず、今日一日だけでも自分で持つ事にした。

ぼんやり考えて行つたおかげで遅刻してしまつた。

そして、また虐め虐め虐め虐め・・・・・・・・・・・・

彼は泣き喚いた。

増える傷、痣、血反吐も出た。

今日の虐めは一段とレベルが上がつた。

家に帰るまでは地獄（帰つても地獄の場合もあるが・・・・・）。

自分の部屋に入り、やっと休息と安心が証明された。

「あ・・・」

鞄を開けると、

忘れていた拳銃が静かに、そして威圧感たっぷりに存在していた・・・

とつあえず、鞄から出し、眺めてみた。

「これを撃つたらどうなるんだろう。どんな威力が出るんだろう・・・・・・」

人を撃つたら・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「やうだ、あいつ等を撃つたら楽しいだろ? なあ・・・・・・

一回試しに撃つてみよ? とも思ったが、弾が無いことに気がついた。

いくつ入ってるか分からぬが、ネットで同じ物のモーテルガンを調べると六弾入っている見たいなので彼は多分六弾入っているんだろうと思った。

いつも虐めている奴らは5人。

一弾はずしても良いくことになるみたいなので、とつあえず明日奴らに発砲することに決めた。

もう、自分の命など、どうでも良いくこと考えていたのかもしれない。

長年の虐められた時のあまりまな恨みやストレスなどがドドドドド

積み上げられ、

この狂気に満ちた虐められっ子が完成された・・・。

次の日、家を早めにでた彼は、トイレで拳銃をポケットの中に入れ、教室に行つた。

教室に行くと、虚めつこ集団がすぐさま寄つてきた。

「おー、今日は早ええじやねえかよ、ふざけんな

何にでもケチをつけてくる。

近くに来た瞬間すぐさまにポケットから拳銃を出した。

「お、お前、殺されたくなければ、今すぐ俺の前で謝れ。」

「は、ハハハハハ。 モデルガンなんか持つて何やつてるんだよ、俺達を馬鹿にしてるのかア？」

近くに寄つてきた一人に銃口を向け、そして発砲した。

パン！

銃から発砲音が鳴ると、彼は不意に受けた反動でよろけ、弾は虚めつこの耳を掠めた。

「（い、いこつまアジだ・・・）

虚めつこ達は責ざめたとともに、この狂つた馬鹿を斥めよつと囁いた。

クラスにも人が集まつてくる、女子は叫び、男子は興味本位で集ま

つてきたり、
逃げたり・・・

すぐさま一発目を違う奴に向けて発砲した、腕に喰らい倒れた。

「野郎ツ！」

突然突進してきた虐めつこに向かって3発目を発砲したが、外した。

「ここで彼は全員を撃つことが出来なくなつた。」
パニックで乱射する!

銃弾は黒板や窓ガラス、そして机などにあたり、彼は暴れた

銃のグリップでいじめっこを殴りうとしたが、逆に拳銃を取られ、ボコボコにされた。

彼は氣絶した。

なんで、俺がこんな目に・・・

俺が悪いの・・・?

お前ら、見て見ぬフリして來たじやないか・・・

やめられ・・・

俺は悪くない 俺は
・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0507d/>

拳銃

2010年12月19日10時42分発行